近代的な工業地帯と
健康で文化的な住みよい都市建設

6. 施設の整備計画

・工場用地
　臨海埋立造成　2,978ha　：有明 1,766ha、八代 1,212ha
　内陸部造成　1,324ha　：有明　558ha、八代　253ha
　熊本 513ha

・工業用水道
　八代工業用水道　：475千㎥/日　球磨川水源
　有明工業用水道　：345千㎥/日　菊池川水源

・道路
　九州縦貫高速自動車道、1級国道3号線、57号線（九州横断道路）、2級国道各路線、域内連絡道路等

・鉄道
　鹿児島本線（久留米～八代間）の一貫複線化と電化
　八代、荒尾、長洲等主要駅の改良、臨港鉄道の建設

・港湾
　長洲、荒尾、八代港の画期的修築、三角、百貫港の整備

・住宅及び住宅用地
　人口増加に見合う住宅建設、住宅団地（16団地 1,223ha）の開発

・都市計画
　上水道、下水道の建設、整備
　都市街路、公園緑地の整備及び区画整理等

・文教、厚生
　人口増加、工業開発に即応した小・中学校・高校・工業専門学校の新増設各種医療施設、社会施設の整備拡充、職業訓練所の整備拡充

九州の開発拠点
地方産業の振興、格差の是正

7. 本地域開発の効果及び役割
・九州地方の経済発展、格差縮少に寄与
　九州域内の経済交流を活潑化し経済発展を促進する拠点の広く大きな波及効果おくれた中南部、西九州に対する大きな直接、間接の波及効果
・産炭地の振興に寄与
　製鉄、大規模火力発電と関連産業の大巾な石炭需要
・農林水産業近代化の促進に寄与
　農林水産物の需要増大、兼業機会の増大、構造の改善による農家所得の増大
・九州域内の機械工業発展に寄与
　砂鉄を原料とする特殊鋼の生産
・雇用の安定に寄与
　膨大な労働力の需要による雇用の安定

8. 農業への波及と調整
・農林水産物の需要増大
　人口集中による大消費市場の形成→
　農林水産物を原料とする加工工場の建設→農業の近代化促進
　→生産性の向上、選択的拡大（主産地形成）、商業的農業への移行→農業所得の増大
・交通網整備による流通の円滑化
　消費市場に短時間に、鮮度をおとさず大量の出荷が可能→価格の有利性
・労働力の調整確保
　自立農家の創出を目標
　現在の新規農業就業者以上の補充
・農地の確保
　農地の潰廃（工場、住宅、交通施設、その他）対策として干拓地、樹園地の造成等の施策による十分な確保
・用水の調整
　農業用水、工業用水の完全な総合調整
　水利施設の整備促進

■ 産業人企画

学校給食

■ ちか頃の小学生の体の発育は、まことにめざましい。その原因の一つは〝学校給食〟。国でも県でも、今年からはこれまで以上に、学校給食に力を入れることになっているが、その現状と問題点はどこに……

□ 生まれて十六年 □
□ の学校給食 □

春四月、学校もいよいよ新学期。新しく入学する子供たちは「学校に行けば給食があるんだよ」と、いまから楽しみにしているくらい、学校給食は小学校生活に密着したものとなっています。

この給食も、その源をたずねると、今から七十四年前、山形県の荘内小学校で、お坊さんたちの托鉢で得たお金で、六十七人の貧しい児童に無料昼食が与えられたのが、給食の始めといわれています。

その後、学校給食という名で給食が始められたのは昭和二十三年から。いわゆる終戦後の栄養不足状態から子供を守るために、占領軍放出のかん詰や粉乳で給食を始めたのがきっかけです。

それから十六年間、当時県下で四十九校に過ぎなかったミルク給食校が、現在では完全給食、ミルク給食あわせて五百二十七校の多きに達しています。

学校給食がこんなに盛んになったのは、その効果が広く認められたからであり、その一例として、各家庭の卒直な意見をみても、学校給食の効果として、

(1) 偏食をなおす
(2) 児童の体位を向上させる
(3) 家庭の手間がはぶける
(4) みんなが同じものを食べる
(5) 食事のしつけができる
(6) 家庭の食生活を改善する

という結果が出ています。

これは文部省が全国的に行なったアンケートの結果ですが、そのまま、学校給食の目的にもピッタリ一致しているのです。

偏食がなおったと感謝

(1)の偏食をなおすということは、なかなかむつかしいことですが、学校では先生の指導で、教育的に、しかもごく自然に偏食をなおすことに成功しており、子供達は食べることを通してバランスのとれた食事がどんなに大切かよく知っています。

熊本市の託麻原小学校では、校長先生をはじめ先生方が交替で、偏食する子供たちと会食しながら気ながに矯正されていますが、その努力ばまことに敬服すべきものがあり、それだけに偏食がなおったと、家庭の感謝の声も多いのです。

(2)の体位向上については、いまさら述べる必要もないくらいで、特に身長の発育はすばらしく、いまどき親より小さい子供は珍らしい程になったのはお気づきのとおりです。

(3)の家庭の手間が省けるということは、教育的にはどうかと思われますが、或いはこれがお母さん達の本音かと受け取れ、思わず苦笑してしまいます。

□ ランチ・ルーム □
□ の楽しい会食 □

(4)の「みんなが同じものを食べる」ということは、学校給食の最も大切な目標です。

校長先生も、受持ちの先生も子供たちも一緒に、音楽やお話を聞きながら同じものを楽しく食べることこそ、学校給食の一番のねらいです。そして給食の場は、教育の機会均等という意味で、師弟同行のうるわしい自然的教育の場であるわけです。

熊本市の高橋小学校では、講堂を利用した「ランチ・ルーム」で、全部の先生と子供達が毎日楽しい会食をしていますが、何とほゝえましい情景でしょうか。

楽しく給食たべようね
なかよくたべよう
ニコニコと
みんなの血となり　肉となり
大きくなるんだ　ぼくたちは
……と楽しい〝給食の歌〟が聞えてくるようです。

ご両親の学校時代、お互いにおかずを見られないようにべんとうをかくしてこそこそ食べた昼食の思い出とくらべて、なんと明るく楽しい昼食でしょうか。

〝同じ釜の飯を食べる〟という言葉があるように、それがどんなに大切なことか、昔からいわれているとおりです。

人との交わりの上から、テーブル・マナーの点からしても、学校給食では自然とこれを学び実行することが出来るようにな